

特集

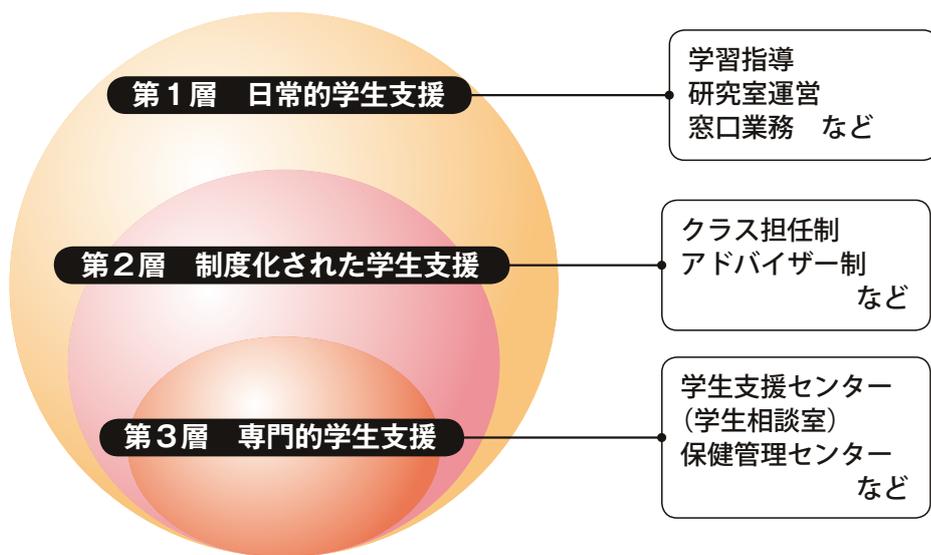
学生生活 オールサポート!

—学生支援の現在—



学生支援センターが発足してから3年が経過しました。この間、本学は学生支援に対してさまざまな取り組みを行い、大きな成果をあげつつあります。53号ではキャリア支援活動を取り上げました。

今号では、学生生活全般に対する支援活動を中心にお伝えします。



学生支援の3層モデル

上の図は、学生支援の構造をモデルで表したものです。第1層は、教職員により行われる研究室運営や、窓口業務など日常的に行われる学生支援を示しています。第2層は、学習面や生活面について担当教員（アカデミック・アドバイザーや指導教員など）が指導する、制度化された学生支援です。そして第3層が、学生支援センターや保健管理センターなどによる専門的學生支援です。今回はこの学生支援センターの活動に焦点をあて、学生支援に対する取り組みや、近年新設・改修された学生支援施設などを紹介します。

本学では、学生生活全般、すなわち「入学から卒業まで」を学生支援の範囲と位置づけ、学生生活の充実を図るための環境整備をソフト・ハードの両面で進めています。とりわけ特色といえるのは、学生の自主的な学習活動や課外活動を大学教育の一環として正面から捉え、支援していることです。

自主的学習活動・課外活動を支援

「学生の自主的な学習活動」を支援するために、一般教育棟A棟一階およびA棟別館一階に学生が自学自習できるフリースペース「Waku2スクウェア」、プレゼンテーションの練習が行える「プレゼンテーションルーム」、そして自主学習システムによる自習を行える「情報処理演習室兼自習室」・「語学演習室兼自習室」を開設しています。

また、「学生の課外活動を支援」するため、留學生支援に協力する学生ボランティアに対し、教養教育科目として単位を認めています。また、サークル活動（スポーツ）を行っている学生や、地域住民を対象としたスポーツ教室を開催した学生に対する単位認定なども行っています。これらの取り組みは全国でも珍しく、先駆例として注目されています。

メンタルケアを重視

学生支援を行ううえで、メンタルヘルスのケアを重視しています。学生相談室に専任教員2名を配置し、修学相談・進路相談から友人関係、さらには恋愛の悩みまで、ありとあ



▲学生相談室

らゆる相談に応じています。足を運びやすい一般教育棟C棟一階に配置し、部屋を明るい雰囲気にするなど、学生が入室しやすく配慮した結果、相談件数は増加傾向にあり、カウンセリングにより、成績不振や不登校などの問題から立ち直った学生も少なくありません。また、本相談室では「ピア・サポーター制度」を導入

しています。ピアとは「仲間」という意味で、学生がさまざまな問題にぶつかった時、気軽に相談を受け、問題解決の手助けをする学生ボランティアのことです。ピアサポーターの一人は「とてもアットホームな空間です。入るのに勇気があるなあと、思う人もいるかもしれませんが、本

当に気軽にきてみて下さい。私自身、先生方や他のピアサポーターとさまざまな話をしてリラックスした時間を過ごしています。たまにお茶やお菓子も出てきたりします。一度きりしかない大学生活、一緒に楽しみましょう！」と語ってくれました。このような学生相互が助け合う仕組みは、「単に大学が学生を支援するのではなく、互いに助け合うことで人間性を高めて欲しい」との考えにもとづくものです。なお、この「ピア・サポーター」活動も単位化されています。

さらに、鹿田キャンパスにも学生支援センター鹿田相談室を設け、さまざまな相談を受け付けています。

安心できる学生生活のために

現在、全国の大学で、カルト（反社会的な団体など）による学生への勧誘活動が報告されています。本学でも、学生をカルトから守るために「カルト問題対策会議」を設置し、厳しい態度で臨み、講演会などさまざまな啓発活動を行っています。その一環として実施しているのが、カルト系団体への腕章配布です。カルト系団体はサークルの勧誘を装う場

合が多いため、公認サークルに腕章の着用を義務付けることで、学生がカルトに勧誘されることを未然に防ぐことができます。画期的な対策としてメディアでもとりあげられました。昨今、カルト系団体の活動が活発化しています。不審な団体の勧誘にはくれぐれも注意してください。



▲カルト対策のため義務付けた腕章をして新入生を勧誘するサークルのメンバー（山陽新聞社提供）

学生生活を全力でバックアップしていくために、このような取り組みとともに、奨学金制度や授業料免除できる仕事を用意するなどの経済的な支援も検討しています。

学生生活を支援する取り組みと施設



プレゼンテーションルーム

大型のスクリーンが設置され、スライドを用いたプレゼンテーションの練習ができるようになっています。学生団体のミーティングや自主的な勉強会などに使われています。予約制ですが、予約がない時は、自学自習スペースとして使用できます。

Waku² スクウェア1・2

平成21年に開設。無線LAN・有線LANが設置されており、個人用のパソコンで快適にインターネットが利用できます。単なる自学自習のスペースではなく、授業の空き時間・休憩時間でも学生が過ごせる居場所として設置したので、どんどん利用してください。



イングリッシュカフェ

学生の英語力向上と国際交流促進を目的として大学会館に設置されました。「自由に英語でコミュニケーションする場所」をコンセプトに、外国語教育センターの教員・外国人留学生とのフリートーク、英語に関する各種イベント、授業の空き時間を利用した少人数制の英会話レッスンなどが行われます。



情報処理演習室兼自習室 語学演習室兼自習室

この部屋は一般教育棟A棟一階にあり、学生が自由に利用できるパソコンを設置し、パソコンを使った自習が行えます。このほかにも、無線LANのアクセススポットを津島キャンパスに13か所、鹿田キャンパスに3か所設け、学内のさまざまな場所でネットワークが使用できるよう、環境整備につとめています。



障がい学生への支援

障がい学生に対する支援のさらなる充実をはかるため、支援コーディネーターを配置し、障がい学生支援室を設置しました。障がい学生の修学支援全般や学生ボランティアの養成、施設改良の提案など、障がい学生支援に関わる全般を担当しています。これまでに、ノートテイカーの養成、障がい学生支援のための研修会、障がい疑似体験のイベントなどを実施しています。





新入生 歓迎企画

生協の組合員(学生)でつくる岡山大学生協学生委員会(C.C.C!)の活動も活発です。毎年入学シーズンに新入生を歓迎するための「春はほのほの交流会」を開催するなど、さまざまな交流イベントを行い、本学の活性化に寄与しています。

昨年からは、岡山大学生協学生委員会(C.C.C!)・環境部ECOLO・岡山大学校友会の3団体が、各々で実施していた新入生歓迎企画を統合し、新たな新入生歓迎実行委員会を立ち上げました。新入生を温かく本学へ迎え入れようと横断的な新入生歓迎企画を実施しています。

岡山 生協

岡大学生協とは、緊密な連携関係に立ち、互いに補完しながら学生生活をバックアップしています。アルバイトの紹介や賃金住居の紹介、教科書などの販売は主として生協が行っています。ピーチユニオン、マスクットユニオン、そして平成21年に開店したピオーネユニオンには食堂が設置されており、栄養のバランスのとれたメニューがそろっています。また、本学農場で収穫された「岡大ライス」が使われており、地産地消にも一役買っています。一般教養棟A棟には物販店「こももショップ」があり、昼食時の混雑の解消につとめています。

鹿田地区にも、平成22年4月中旬から生協が運営する学生食堂が開店し、津島キャンパスと同じようなサービスを提供していきます。また、パソコン講座「PC総合サポート」や公務員試験対策講座など、学生の志望に合わせたさまざまな講義を安価で提供する学内講座も実施しています。



地域貢献を 支援

地域に支えられた大学として、学生による地域貢献活動を支援しています。その一つが本学と生協の協力により、学生団体「L☆Luck」が毎年冬に開催しているイルミネーションイベントです。平成21年は12月16日から12月25日まで開催され、地域の方々の目を楽しませました。また、平成21年には初の試みとして、本学と生協の協力により、学生が



「岡山大学つるるかむデー」を主催しました。これは学生と留学生が協力し、世界各国の料理をふるまう屋台を開いたり、子ども向けのイベントを実施するもので、来場した多数の地域の方々と教職員・学生がともに楽しみました。これらの活動は、学生がイベントを主催し、地域の方々と触れ合うことで人間的に成長することを目的としており、参加者からの評判も上々で、今後も継続する予定です。

大原美術館 学校メンバーズ制度

平成19年度から、学生の心を豊かにすることを目的に、大原美術館(倉敷市)に本学学生であれば学生証提示で何度でも無料入館できる「学校メンバーズ制度」に加入しています。大原美術館は日本で最初にできた西洋美術館で、文化的にも歴史的にも価値ある美術品を多数所蔵しています。



ぜひ、保護者の方や友人・知人とともに訪れてください。